

| | | | |
|----------|------------------------|----------------------|--|
| a 学校教育目標 | 夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成 | b 経営理念 ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校 |
|----------|------------------------|----------------------|--|

| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | | | 改善方針 | | 学校関係者評価 | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|--|--------------------------|---------------------|--------|-------------------------------------|--|---|------------|---|--|---------|---|--|---|---|---|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g 目標値 | 10月 | 2月 | i 達成度 | j 評価 | k 結果と課題の分析 | n 改善方針 | l 評価 | | | m コメント | | | |
| | | | | | h 達成値 | h 達成値 | | | | | イ | ロ | ハ | | | | |
| 確かな学力 | 自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成 | ○基礎学力の定着と個別最適な学びの充実 ○家庭学習の習慣化 ○ICTを活用した学習活動 ○学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実 | ○ドリル学習や個別指導による基礎学力の定着 | ○標準学力調査(NRT) | 全国平均以上 | 50.4% | 50.4% | 100.8% | B | ・NRT平均偏差値は1年50.9%、2年生51.3%、3年生48.9%で、教科では2年・3年数学、3年国語、理科、英語が全国平均を下回っている。 ・家庭学習の習慣化についての肯定的評価が初めて70%を超えた。 ・ICT活用についての肯定的評価は年間を通して、90%を超えている。 | ・各教科、各学年で分析した内容をもとに、それぞれで来年度のNRTに向けた取組を行っている。 ・引き続き、教科や学年でICTも活用しながら家庭学習の質や量を改善していく。効果的な方法等について、教科や学年で連携していく。その際、家庭学習の習慣がない生徒への対応にも焦点を当てて取り組んでいく。 | ○ | | 生徒の集中力や暗記意欲、板書スピード、表現力等にコロナのマイナス影響が出てくることを懸念する。そんな中でも、よく取組を進めており、その効果も出ていると感じる。 | | | |
| | | | ○家庭学習の習慣化 | ○家庭学習の習慣化 | 80%以上 | 69.8% | 70.0% | 87.5% | | | | | | | | | |
| | | | ○ICTを活用した学習活動 | ○ICT活用の意識調査 | 90%以上 | 92.8% | 94.3% | 104.8% | | | | | | | | | |
| | | | ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 | ○研究授業1人年1回以上(1単元開発) | 1人1回以上 | 現在15名実施 | 全員実施 | 100% | | | | | | | B | ・研究授業は計画通り実施した。 ・授業満足度は、約4%下がっている。過去3年間を振り返っても同じ傾向が見られる。 ・「自分の考えをもって友達に伝えようとしている」の肯定的評価は10月より約6%上昇している。 | ・三原市教委や管理職の指導等を基に、日々の授業改善を行っている。 ・「授業がよくわかる」の数値が減少する要因の1つとして、学期が進むにつれ内容が難しくなることが考えられる。生徒にアウトプットさせたり、ドリル的な学習を取り入れたり等、教師の一方的な授業ばかりにならないよう、研究部を中心に発信していく。 |
| ○思考力・判断力・表現力の育成 | ○授業がよくわかる | 95%以上 | 93.8% | 89.5% | 94.2% | | | | | | | | | | | | |
| 豊かな心・健やかな体 | 人に愛される生徒の育成 | ○積極的な生徒指導の推進 ○道徳教育の充実 ○異年齢集団での協働活動の推進 | ○生活四訓の徹底 | ○自分からあいさつ | 80%以上 | 64.2% | 72.0% | 90.0% | D | ・あいさつについての肯定的評価が10月より8%上昇している。 ・昨年度2月(いじめが1件、暴力行為9件)からは、大きく減少している。 ・昨年度2月(15名)とほぼ同じ人数である。 | ・あいさつの数値の上昇は、生徒会執行部の取組が大きな要因となっている。引き続き、生徒会執行部と連携しながら取組を進める。 ・「いじめ」「暴力行為」については、今行っている指導を継続する。 ・不登校に関して、担任の取組により30日を超えていても昨年度より改善している生徒もいる。そのような効果的な取組を全体で共有する等、教育相談を充実させる。 | ○ | | コロナを言い訳にせず、大変前向きに取り組んできたその成果が出てきている。新たな問題行動や不登校を生まないためにも、日々の生徒とのコミュニケーションを大切に、デ일리ライフを通じて生徒の心のサインを願いたい。 | | | |
| | | | ○デイリーの取組やいじめアンケートの実施 | ○「いじめ」「暴力行為」の件数 | 0件 | いじめ0件 暴力行為1件 | いじめ0件 暴力行為3件 | 0% | | | | | | | | | |
| | | | ○学校ふれあい教室の経営と教育相談の充実 | ○不登校の人数 | 15人以下 | 現在11人 | 16人 | 0% | | | | | | | | | |
| | | | ○道徳の授業満足度 | ○道徳の授業改善 | 90%以上 | 82.7% | 82.3% | 91.4% | | | | | | | B | ・10月と大きく数値は変わらないが、昨年度2月(88.4%)よりは数値が低い。 ・10月より2%上昇している。 | ・学年で中心発問をどうするか等、時間を取っている学年とそうでない学年との差がある。道徳担当を中心に教材研究をする時間の確保や全体での研修等、授業改善に向けた取組を行う。 |
| ○異年齢集団での協働活動の推進 | ○自己肯定感 | 80%以上 | 76.5% | 81.1% | 101.4% | | | | | | | | | | | | |
| 信頼される学校 | 郷土に貢献できる生徒の育成 | ○地域貢献活動の推進 ○保護者への広報活動 ○業務改善の推進 | ○地域と連携した防災学習の推進 | ○社会や地域への貢献 | 90%以上 | 91.5% | 92.8% | 103.1% | B | ・10月より少し上昇している。また、昨年度2月(81.1%)よりも数値が大幅に高い。 ・10月より3%減少している。 | ・防災学習については、学校行事同様、できる範囲で進めることができたことが上昇した要因である。 ・ボランティアの数値の減少はコロナによる影響が大きいと捉えている。今まで行ってきたボランティアのノウハウを来年度実施できるよう引き継ぎしておく。 | ○ | | ボランティアをすることで通常なら気付かない事に気付くことができるので、取組をどんどん進めてもらいたい。学校に行きにくい状況があるため、生徒の様子が少ないでも分かるように、情報発信に力を入れてほしい。 | | | |
| | | | ○地域行事やボランティア活動への参加 | ○ボランティア活動参加参加 | 100%以上 | 86.6% | 83.6% | 83.6% | | | | | | | | | |
| | | | ○HPへのアップや通信等で学校の様子の広報活動 | ○通信等の発行(月1以上) | 90%以上 | 学校だよりは現在5号 学年通信は全学年毎月以上の割合で出している | 学校だよりは現在9号 学年通信は、どの学年もほぼ月1以上の割合で出している | 75.0% | | | | | | | C | ・定期的に学校だより、学年通信、学級通信等で学校の様子を伝えている。 ・定期的にHPを更新し、学校の様子を伝えている。 | ・コロナの影響により保護者等に来校しただけの参観日等の様子については、HPに掲載し情報発信している。 ・来年度は「すぐる」やクラスルームによる配信になるため、その方法についての研修を行う。 |
| | | | ○1人1業務改善の取組 | ○業務改善の意識調査 | 90%以上 | 88.9% | 81.2% | 90.2% | | | | | | | | | |
| ○週に1日5時間授業の日と定時退校日の設定 | ○勤務時間外の在校時間月60時間以内 | 85%以上 | 70.0% | 57.2% | 67.3% | C | ・業務改善に対する意識調査では約8割の職員が意識して取り組んでおり、前年踏襲ではなく、少しでも工夫して業務にあたらそうとしている。 ・勤務時間外の在校時間が月60時間以内となっていない職員は、10月でのべ143名、割合としては6割弱であり、多くの職員が60時間以上となっている。 | ・コロナによる急な日程変更や行事等の延期などの影響で、事前に予期できない業務等により、勤務時間外の在校時間の増加につながった。次年度に向けては、引き続きコロナ対策が必要であることを考慮し、現在の取組のスクラップ&ビルドに取り組み、今一度業務の見直しを行っていく。 | | | | | | | | | |

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。